

平成25年度の予算が6月定例市議会で成立しました。後藤市長は、本年度の予算説明を通じ、市政運営の基本的な方針並びにその主要施策などについて所信の一端を述べ、市民の皆さんの市政に対する深いご理解とご協力をお願いしました。その趣旨は次のとおりです。



き締まる思いとともに、市民の先頭に立って市政を執行することの重要性を心に刻み、職務に励んでまいります。また、皆様のおかげで22年間県議会議員として勉強させていただきましたことを市長としての立場から今後の施策に反映したいと考えています。

昨年末の政権交代をきっかけに日本の景気観は急変しています。いわゆる安倍政権の掲げる経済政策アベノミクスは、大胆な金融緩和、機動的な財政出動に続いて、まもなく打ち出される第3の矢である新成長戦略が功を奏してデフレ経済を克服、経済大国日本がよみがえるか、注目される所です。アベノミクス効果がどのような形で、いつ地方に具体的に波及してくるのか、関心がもたれます。

このような中、本年4月の市長選挙におきまして、市民の皆様を代表として、市政運営の舵取りを担わせていただくこととなりました。身の引

全国のほとんどの地方都市では、人口減と高齢化の流れに歯止めがかからない状況にあります。豊前市は現在、65歳以上の高齢者が約30%となり、高齢社会に突入しています。全人口のなかで高齢者比率が3割というのはいかにも将来に希望が持てないような印象を与えますが、これは考え方次第です。日本が目指した長寿国家が実現したと喜ぶべきであり、決して悲観すべきではありません。

新年度に当たり、この長寿を誇る豊前市で、高齢者がいきいきと活躍できる「生涯現役社会づくり」を目指したいと考えています。高齢者が仕

事を持ち、収入を得る、こんな現役は理想です。これが可能な人たちにはほとんど頑張っていただきたいと思いません。ただ、収入だけが現役である証ではありません。長い人生の中で培った経験をもとにボランティア活動で地域に貢献してはならない存在となつていただくのです。周りから「ありがとう」ございます。の声が返ってくる存在です。直接的に地域や他人に役に立つ技を持たなくても、周囲の人たちに「あなたの存在のおかげで笑顔が絶えない」「感謝されてこちらの方がうれしく、元気をもらった」など、家の中に閉じこもってしまう生き方ではなく、外に出て、元気な姿と笑顔を見せてくれるだけでも十分なのです。

このような存在でいた

ています。各種のスポーツ、文化などの活動に加え、楽しみながら体力や気力、脳のトレーニングにつながる分野の活動にも力を入れていく方針です。

一方、人口減を加速化する少子化の勢いも全国的に留まる様子が見えませんが、豊前市は2万7千人の人口を死守すべく、その原因となつている少子化については、これまでの出産、育児支援施策だけでなく30歳代、40歳代の男性が結婚できるような施策にも積極的に取り組む覚悟です。「結婚は個人の問題」「独身という生き方を選ぶのも自由」ではありませんが、世話をやかないと自分では決めきれない男性も多いようです。こんな男性に「おせっかいな市役所」になろうと考えています。

少子高齢化により人口の自然減が続きますが、減少を食い止めるため、豊前市に住んでみたいエリア、豊前市に戻ってきたいJターン、Uターンの受け皿となる地域づくりが欠かせません。これまでも都市生活並みの下水道施設整備、市営住宅建設、宅地の提供、住宅を建てやすくする支援策などを実施してきました。どれも一応の成果を見てい

ますが、決定打にはなっていない。ホームランは出ていませんが、ヒットは出ています。

このような単打で稼ぐことも必要です。新年度は、新しい「単打策」として、市外に出ている市出身者や市内の企業で働いた経験のある方、市内の学校に通われた方など豊前と縁の深い方々に、市政情報や市に関する新聞記事などをフェイスブックで送信するサービスを開始できたらと考えています。「在外市民課（仮称）などの担当者を配置して日々のニュースが送信費用もほとんどかからずに発信できます。四季折々の山の、海の実りを、新たに開発した特産品を情報提供し、また、遊びに、学びに来てほしい海山の自然の里や八屋・宇島祇園、神楽などの伝統行事情報も送信できます。

豊前市の魅力を多くの「在外市民」に届けるのです。豊前への誘い情報をいつも発信できます。人口が少なくなつても豊前市応援団が支えてくれるのではないかと期待できます。豊前市に訪れてくれる交流人口増につながります。特産品振興に期待ができません。このためには市民の皆様から縁故のある方々に登録の

ご協力をしていただきますようお願いいたします。

次に、豊前市の産業の基盤にある農林水産業の振興に積極的に取り組みます。特に国がすすめる農商工連携、6次産業化の事業を活用して豊前の生産物に付加価値をつけ、名所づくりにつながるように取り組んでいきます。たくさんの方が豊前市に来て買ってくれる、食してくれる、学んでくれる舞台を造らなければ、と考えています。

なかでも水産業の分野は全国的にも6次産業化が遅れています。豊前海はガザミやヨシエビ、一粒がぎだけでなく美味な魚介類がたくさん水揚げされています。この豊かな海の幸とその加工の場面を多くの人がたちに見てもらい、買っていただける場を設置すべきです。東九州自動車道の開通を直近に迎え、地元だけでなく遠方からのお客が喜んでやってくる名所となるはず

です。こうした地元の特産品を活かした地域づくりに加え、九州電力の発電所の立地する電源立地のまちを、いま以上に強化する手を打たねばなりません。原子力発電所が廃炉の道をたどらざるを得ない現

況からすると、エネルギー供給の町の果たすべき役割と進むべき方向は限られていません。太陽光や風力などの再生エネルギーは電力の価格や供給量で不安定な部分があります。オイルシェールガスといった新エネルギーも未知数です。豊富な木材を原料とする木質バイオ発電も有望です。専門の企業も誕生しています。ぜひ誘致したいと考えています。

さらに1キロワット当たりの電力料金が原子力力の1円に比べて5円という石炭火力発電が注目されています。高効率の発電技術が開発され、新成長戦略の目玉の一つに挙げられています。この石炭火力発電は二酸化炭素の排出量が少なく、オイルや液化天然ガスなどに比べ廉価で九州電力豊前発電所の建設予定地にうってつけです。豊前発電所をこんな発電所に衣替えしてもらうように九州電力や国に働きかけるだけでなく、灰捨て場の造成など市としてできることに積極的に取り組みねばなりません。

こうしてできる電力が安価なら、高すぎる電力料金に悲鳴を上げている企業が元気を取り戻し、海外に転出などし

なくていい環境をつくれます。このことで一人でも多くの若者が就職できる場を守り、増やさなければなりません。

今後も、国・地方の財政状況は、更に厳しさを増すものと推測されますが、こういう時期にこそ明確なまちづくりのビジョンを示し、地域の情報をしっかり理解・整理し、迅速に対応しなければなりません。これまでの経験を活かし、市民の皆様の参画と協働の下で、職員一丸となつて、全庁的に問題意識や課題を共有しつつ、市政運営に一杯取り組んでまいる所存でございます。

次に、こうした重要課題に対する施策に加え、本年度の主要な取り組みについて申し上げます。

安全安心なまちづくり

市といたしましては、一昨年起こった東日本大震災の教訓を活かしつつ、改めて津波対策や南海トラフ地震対策について地域防災計画の見直しや引き続き海抜表示板の追加を行い、市民の皆様の生命・財産を守るべく災害対策の強化に取り組んでまいります。

さらに、防災に関する知識

と実践力を身に付け、地域や職場の防災リーダーとして、周囲の人々を助ける安全・安心の担い手として期待されている防災士の養成を行い、災害に強い地域づくりを目指します。そして、市民への防災情報や行政情報を迅速に周知するための伝達手段として防災行政無線を十分に活用するとともに、さらに強化を図ってまいります。

また、地震や津波の発生を想定した防災訓練を角田小・中学校と地域の方々にも参加を呼びかけ、実施したいと考えており、今後も継続して地区単位の自主防災組織の育成にも努めてまいります。交通安全施設の整備については、児童・生徒をはじめ歩行者の安全確保の観点から、歩道設置、防護柵、カラー舗装や区画線・外側線等の線引きを継続的に実施します。

産業の振興

最初に、観光につきましては、地域の特色を活かした新しい特産品の開発や観光客の増加による消費の拡大など、地域の活力が活かされるまちづくりを推進してまいります。

このため、昨年、景観形成の

重点地区となつている求菩提山周辺が文化財保護法に基づく重要な文化的景観として文化庁から選定されたのを機会に、修復基準を策定し、地元負担の軽減等に努めてまいります。

また、本年3月、北九州・京築地区ではじめて森林セラピー基地の認定を受けましたので、セラピーロードの整備を行い、案内板を整え、手すり等の安全対策も並行して実施し、農村民泊などグリーンツーリズムの取り組みとの相乗効果による知名度アップ・地域の活性化につなげていきたいと考えております。

農林水産業につきましては、地域就業支援体制構築促進事業や青年就業給付金により、新規就農のさらなる進化発展を目指すとともに、新規就農者のフォローアップにも努めてまいります。

商業につきましては、中心市街地の活性化を図るため、プレミアム商品券やTMO事業などを活用し、本市の特色を出した商店街づくりに取り組みながら、外部からの買い物客やサービスマン利用客を引き込む交流人口の増加を進めてまいります。

健康・福祉の充実

高齢者福祉・介護予防につきましては、これまで地域社会を支えていただきました高齢者の方々が、今後住みなれた地域で、生涯現役でいきいきと暮らし続けていくことができるまちづくりを進めていくことが重要です。そのため、の仕組みづくりとして、ころばん塾やエアロバイクを利用した健康教室を継続して実施するとともに、生涯スポーツ等を推進し、将来、寝たきりの状態にならないための介護予防事業等に取り組んでまいります。

障害者福祉については、障害があっても生きがいを持ちながら安心して暮らすことができるよう、障害者福祉計画等に基づき、地域の関係機関と連携しながら発達支援事業やサービス事業の充実に努めてまいります。

子育て支援につきましては、安心して子どもを産み育てることができるように、乳幼児・子ども医療の助成や第3子以降保育料無料化制度を実施し、子育て世帯の負担の軽減を図ってまいります。

また、放課後児童対策につきましましては、最後の未設置地区であります大村小学校区に、

放課後児童クラブの開設に向けた取組みを実施します。

医療・保健につきましては、「生涯現役社会づくり」実現のために、疾病予防や心肺機能を高める歌唱を取り入れた健康法などに取り組むほか、本年度より定期接種化された子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌のワクチン接種を引き続き促進するとともに、未熟児養育医療についても実施いたします。

都市基盤の整備

都市基盤の整備において、JR宇島駅につきましては、エレベーターの整備や宇島駅を南北につながる自由通路が完成し、利用者の利便性が高まり、乗降客の増加につながると考えています。

築上北高跡地につきましては、向原池周辺の公園化を図り、市民の多くの方に利用される健康維持の場となるように、遊歩道等の整備を行うてまいります。また、上町・沓川池線街路事業につきましましては、旧図書館から八屋・荒堀線の区間の用地買収を進めてまいります。

住宅政策につきましては、薬師寺第2期分譲地の販売も開始し、新たに県営三楽住

宅跡地の造成事業に取り組んでまいります。

また、光ブロードバンド基盤整備事業については、光ファイバー網を旧合河局管内である岩屋地区・合河地区・横武地区の山内地域に整備し、早期に情報格差の是正に努めてまいります。

東九州自動車道関連では、開通を2年後に控え、インターチェンジと10号線を結ぶバイパス道路の整備工事が各所で進んでおり、市内各地域間を結ぶ道路網の整備につきましては、社会資本総合整備交付金事業により3路線の整備に取り組んでまいります。

環境への取組みにつきましては、市民の皆様が地球温暖化防止への意識の高揚を図り、再生可能エネルギーの活用に向け、引き続き太陽光発電システムを導入する住宅に対して、その設置費の一部を助成してまいります。

教育・文化の充実

教育の整備・充実につきましては、プロの演奏家等を招いて子ども達に本物の芸術体験を提供する「学び支援事業」を各小学校で実施いたしました。各学校とも好評であ

り、児童の感性に響いた内容になりましたので、本年度は、

中学校に拡充して、福岡県市町村振興協会の事業を活用し、中学生の未来に贈るコンサートを実施します。また、小規模特認校における教育活動の充実につきましては、学力向上も含めて特色ある教育に取り組んでまいります。そして、本年度より、小中学校に学校図書館司書を配置して、児童・生徒の読書

がなれに歯止めをかけ、選書や環境整備に活用していきいと考えています。また、県小学生読書リーダー活動推進事業を実施し、各小学校5年生を対象に夏季休業期間中に図書館において講座を開講し、本年末には、全体の交流発表会を実施します。次に、環境整備については、県道の拡幅工事に合わせて、合岩中学校の擁壁改修を行い、見通しを良くし、安全対策を講じます。

社会教育につきましては、市民会館の長期使用の可能性についての調査を行い、今後の活用について総合的に検討するとともに、市民球場・ミニグラウンドの整地用スポーツトラクターの更新を行い、快適に使用できる環境整備を

行うこととしております。

行財政改革の推進

行財政改革につきましましては、財政規律を緩めることなく、収支の均衡を図り、今以上のコスト意識を持ち、市民サービスの向上と未来の子どものために豊前の魅力を引き継ぐことを基本に、行財政基盤の確立に向け、引き続き取り組んでまいります。

以上、申し上げてまいります。今年度は第5次豊前市総合計画に掲げる「安心文化のまち 豊前」の大切な第1歩となる重要な年と考えております。

私を先頭に職員一丸となつて、全力で強力に取り組んでまいりますので、議員並びに市民の皆様のお一層のご指導と温かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

